第2回小牧市教育振興基本計画検討会議会議録

1 開催日	平成28年5月30日(月)	
2 開催場所	市役所本庁舎301会議室	
3 出席した委員	会長 柴田好章 委員 永井勝彦 委員 今枝健 委員 森澤洋美 委員 倉知雪春	会長職務代理者 伊藤健次 委員 植松浩二郎 委員 青山絵美 委員 舟橋尚女 委員 長尾英俊
4 欠席した委員	丹羽三枝子	
5 出席した職員	教育部長 大野成尚 教育部次長(社会教育担当) 鍛冶屋勉 学校教育課主幹 梶田光俊 スポーツ推進課長 落合健一 図書館 山田久 こども政策課長 永井政栄 教育総務課長補佐 野田弘	教育部次長(学校教育担当) 伊藤一裕 教育総務課長 松永有紀彦 文化振興課長兼小牧山課長 村田吉隆 生涯学習課長 岩本淳 保育課長 長谷川隆司 秘書政策課 丹羽勇人
6 その他の出席者	(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 江口陽子	
7 本会議書記	教育総務課庶務係主査 五十君有美子	
8 会議内容	(1) アンケート調査結果について (2) 小牧市教育基本計画 計画骨子(案)及び施策体系(案)の検討について (3) 今後の進め方について	

<開会 午前10時00分>

1. 開会

○教育部次長（伊藤一裕）

おはようございます。本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。定刻となりましたので、第2回小牧市教育振興基本計画検討会議を開会いたします。私は司会進行を務めさせていただきます、教育委員会事務局学校教育担当次長の伊藤でございます。よろしく願いいたします。

—出欠の確認—

○教育部次長（伊藤一裕）

続きまして、事務局の職員を紹介させていただきます。

—事務局の紹介—

○教育部次長（伊藤一裕）

では、開会にあたりまして、柴田会長よりご挨拶を頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。

○会長（柴田好章）

みなさま、おはようございます。第2回小牧市教育振興基本計画検討会議にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。本日は、お忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。平成28年1月27日に開催されました第1回の会議では、アンケート調査を中心に議論いたしました。本日の議題を見ますと、実際にアンケート調査が行われ、その集計結果がまとまったようです。この検討会議では、市が作成しております教育振興基本計画の案について、専門的な立場から検討することになっております。本日は、基本計画の骨子案が提案されることになっておりますので、みなさまの忌憚のないご意見をいただきながら、実りある会にしていきたいと考えております。ご協力をお願いいたします。簡単ではありますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。

○教育部次長（伊藤一裕）

ありがとうございました。続きまして、安藤教育長よりご挨拶を申し上げます。

○教育長（安藤和憲）

改めまして、みなさん、おはようございます。本日は、大変お忙しいところ、またお足元の悪い中、ご出席いただきありがとうございます。ただ今から申し上げますことは第1回の挨拶の中でも触れたことですが、小牧市教育委員会では、平成13年に策定いたしました「小牧市教育ビジョン 明日の小牧の教育」を教育指針とし、小牧市の教育を進めて

まいりました。しかしながら、策定から15年が経過し、今後の教育の先々を見据えた小牧市教育振興基本計画を策定するべき時期であるということで、昨年度と今年度の2か年をかけて策定することにいたしました。この経過につきましては、周知の通りでございます。また、時を同じくして昨年の4月から新しい教育委員会制度が小牧市でも発足をいたしました。新しい制度では、教育大綱の策定が義務付けられております。早急に策定せねばなりませんでした。残念ながら平成27年度は策定を見送ることになりました。平成28年度に入り、5月24日に総合教育会議を開催し、小牧市教育大綱の策定に向けた話し合いがスタートしております。教育委員会としましては、私どもが今策定を進めている小牧市教育振興基本計画と、小牧市が策定しようとしている小牧市教育大綱が、連携や整合の取れた内容になることが、小牧市にとって最も望ましい方向ではないかと考えております。

今回審議をしていただきます内容は、会長からお話があった通り、アンケートがまとまりましたので、それを元にその骨子となるべき内容についてご意見をいただければありがたいと思います。今日は、本格的な内容の検討に入っていく第1段階とっておりますので、ご審議の程、よろしくお願ひしたいと思います。簡単ですが、挨拶に代えさせていただきます。本日は、よろしくお願ひいたします。

○教育部次長（伊藤一裕）

ありがとうございました。では、議事に移る前に、資料の確認をさせていただきます。

—資料の確認—

○教育部次長（伊藤一裕）

では、次第に沿って進めさせていただきます。ここからの議事の取り回しにつきましては会長にお願ひいたします。

2. 議題

○会長（柴田好章）

それでは議題（1）アンケート調査結果について、及び議題（2）小牧市教育振興基本計画計画骨子（案）及び施策体系（案）の検討について、事務局よりご説明願ひます。

（1）アンケート調査結果について

—説明— 資料1 小牧市の教育・生涯学習等に関するアンケート調査（調査結果報告書）

資料2 小牧市の教育・生涯学習等に関するアンケート調査（調査結果報告書・概要版）

（2）小牧市教育振興基本計画計画骨子（案）及び施策体系（案）の検討について

—説明— 資料3 小牧市教育振興基本計画（計画骨子案・たたき台）

資料4 小牧市教育振興基本計画 施策体系・詳細版（案）

○会長（柴田好章）

ありがとうございました。では、質問やご意見があれば挙手をしていただき、ご発言をお願いいたします。

○委員（今枝健）

資料4、施策の方向性「12 教職員等の資質向上や指導環境の整備」についてですが、この項目は資料2の6ページにある「市民アンケートの満足度・重要度の分析結果」では重点取組エリアに入っていました。また、方向性の細分化のところに、「教員への研修の推進」とあります。最近、新聞などで教員の多忙化や、時間外労働についての問題が取り上げられています。研修の推進について計画に盛り込むのはいいのですが、実際に現場の先生方が研修に参加できるのかと心配になりました。

○会長（柴田好章）

教職員の研修について、また、多忙化についてもご意見をいただきましたが、他の委員のご意見も伺いたいと思います。

○委員（伊藤健次）

細かいことですが、「教員への研修の推進」という表現が適当ではないように思いますが、いかがでしょうか。全体に目を通したのですが、ここに限らず文言について検討を要する表現があるように感じました。

○会長（柴田好章）

「教員への研修の推進」の「への」のところでしょうか。分かりました。

○委員（倉知雪春）

今、伊藤先生がおっしゃられたように、「教員への」という表現は、教員に対して上から目線のように聞こえました。ただ、保護者から先生への「もっと上手にやってほしい」という意味合いがあるのかもしれませんが。

また、教員の研修については、保護者からの要望にもあり、学校現場の中でも大事な課題だと思います。子どもたちの教育が充実するために教員の資質を上げ、専門性を高めていくために、「教員への研修の推進」は大事な項目であるため、計画には入れていただきたいです。教員が専門性を高めるための研修を、学校あるいは小牧市の教務課で支援する形で考えていただければと思います。教育委員会の活動の中で、教員の研修を支援するという視点は必要だと思います。

○委員（青山絵美）

具体的な事業として、「参加型の教育研修の実施」とあります。参加型の研修では、改善してもらいたいところがある先生が参加せずに、向上心のある先生だけが参加するのは、研修をやる意味がないように思います。基本的に全員参加の研修にする方がいいので

はないかと思いました。

○会長（柴田好章）

「参加型」というのは、自由参加という意味なのでしょうか。

○委員（舟橋尚女）

「参加型」というのは講義式で話を聞くだけの研修ではなく、先生方が話し合いや、実際に何かを行うなど、受け身にならない研修ということではないのでしょうか。自由に参加という意味ではないと思います。その辺りを分かるように書かないと、このような誤解があるかもしれません。

また、このアンケート結果を見たときに、学校や小牧市でも研修を行っていることを、保護者の方はご存知ないのではないかと感じました。学校もホームページなどで情報を発信していますが、色々な研修を実施していることについても発信する必要があると感じました。また、研修の内容を教員が身に付け、子どもたちに還元できているかについて、結果として何も出ていないのであれば、もっと有効な研修の仕方があるのではないかと思います。

○会長（柴田好章）

「教員への研修の推進」については、保護者の方の要望が高いエリアに入っているため、注目も高いと思います。出していただいた質問やご意見を少し整理すると、「参加型」という文言についてのご意見と、研修自体を増やすことは教員の多忙化との関係で可能なのかという疑問をいただきました。これについては、研修の機会、自主研修、校内研修、市主催の研修、県などが主催する研修へ、どれくらいを送り出しているかなど、小牧市の現状の把握をすることが大事ではないかと思います。

○学校教育課主幹（梶田光俊）

校内で実際に行われている研修は、現職教育という研修で、各学校で年間を通して、継続的に計画し、取り組んでいます。内容については、授業づくりや授業研究が中心です。今日的な課題としては、最近話題になっている食物アレルギーへの対応、特別支援教育などで、これらの課題に対応できるように種々様々な研修が各学校で実施されています。

市の研修の多くは夏季休業中に実施します。今年度は約40講座を計画しています。現場で行われている授業づくりの研修を、もう少し広い視野で見えていくような内容になります。授業をどのようにつくっていくか、子どもたちにより豊かな教育が実施できるように小牧市全体で取り組んでいます。また、子どもたちの安心・安全や、命を守るために、救命講習や食物アレルギーへの対応としてエピペン研修、様々な危機管理としての防災教育なども実施しております。

県の研修では、法定研修として初任者研修、10年目研修が定まっており、それが主な研修となっています。そのほか、教育相談活動や、養護教諭の先生方の研修会、栄養教諭の先生、学校栄養職員の方々の研修会なども行われております。市内では人数が少なく、

充実した研修ができないため、県にお願いをしております。

教員の多忙化についても話がありましたが、研修については子どもたちに直接関わる部分でもありますので、会議などを精選し、できるだけ研修会に参加できるように各学校で工夫をしています。また、市が主催する研修についても、参加しやすい期間を確保して実施しているのが現状です。

○委員（森澤洋美）

先生方は忙しくて、研修もたくさんされています。学校に関わる地域の人は、ある程度それが分かるのですが、そうでない方たちからは先生は一体何をしているのだろうという声しか聞こえてきません。学校がホームページを立ち上げて情報を発信しても、アクセスするのは、学校に対する気持ちや興味があり、子どもたちのために知りたいと思っている人たちです。先生方も言葉少な目です。子どもたちや保護者の方に、「研修がある」と一言言ってくだされれば、分かり合えるところも多々あると思います。そのようなことを、日々の中で伝え合える状況をつくっていくことが大事だと思います。市民や保護者のアンケートに、このような結果が出るのは当たり前だと思います。多分、10年程前もこのような結果だったのではないかと思います。

各小中学校では、ホームページで毎日情報を発信するのが定着化しています。夏季休業中のホームページを見ると、子どもの市内大会の結果や活動が載っています。夏季休業中は、先生方の研修もとても多く、市民センターの視聴覚室などで行われています。子どものことをホームページに載せるのは当たり前ですが、先生方の研修についても載せて頂くと、先生も頑張っているから私たちも頑張ろうと子どもたちにも反映されると思います。また、保護者の方にとっても、先生も頑張っているのだからあなたも頑張ろうという方向になればいいなと思います。

○会長（柴田好章）

具体的なデータを持っているわけではないのですが、小牧市が市として取り組む研修は、他市町に比べるとかなり充実しているのではないかと思います。しかし、それが市民に浸透していません。場合によっては、本当に教員の力につながっているのか、また、子どもの学びの充実につながっているのか、そのような検証に課題があるのではないかと思います。研修については、可能な範囲で計画の中に入れていただきたくとともに、日々の指導の充実のために生かしていただきたいと思います。

もう1点お聞きしたいのですが、教員の多忙化に対する対応について、基本目標や施策の方向性に入っていませんが、入れる必要があるかないかは検討されたのでしょうか。

○教育長（安藤和憲）

先日、全国の教育長会の総会が徳島であり、文科省の審議官から、文科省の今後の施策について話がありました。その中で、教員の多忙化について実態を把握し、勤務について見直しをかけねばならない時期に来ているという話がありました。これほど多忙な教員は

日本が断トツであるというデータも出ております。今後の国の動きとしても、出てくるだろうと思います。ただ、小牧市としては、今回の計画の中には入れておりません。県や国と連携を取って進めないと、小牧市だけが多忙化を解消すると言ってもなかなかできることではないからです。検討項目として預からせていただきたいと思います。

○委員（長尾英俊）

今のお話に関連しますが、市民アンケートは、小牧市民が学校に対して何を期待しているかだと思います。資料2の12ページのグラフと、16ページの「6 家庭教育に関すること」で、保護者が家庭で子どもに対して何をすべきかを比較してみると、見えてくるところがあるような気がします。

教員の多忙化に関わって見ると、12ページの市民アンケート「授業以外で教員が行っている次の業務のうち優先すべきだと思う業務」では、「基本的な生活習慣を確立するための指導」「礼儀やマナーなどのしつけに関する指導」が、かなり高い数値になっています。家庭教育に関することとして、保護者の自覚を比べて見ると、違った形で意識されている、期待されていることが見えてくるような気がします。これは家庭でやるべき、これは学校でやるべきだということを、こうした数字の差異によって検討してみるべきではないかと考えながらグラフを比較しました。

私も昔は教員をしていましたが、少しずつ地域のおじさんになりつつあります。そのような中途半端な視点から見ると、家庭や地域でできること、しなくてはいけないことを、より明確にしていくべきではないかと思うことがよくありました。教員の立場からこのような発言をすると、責任放棄だと誤解されることがあり、なかなか面と向かって保護者や地域の方々に言いきれない部分もありました。家庭や地域でしなくてはならないことは、学習指導以外のしつけやマナーの部分だと思うのですが、それを明確に言えない学校のジレンマも受け取りながら、客観的に見ていくことができる大綱になってほしいと思います。

○会長（柴田好章）

学校の教員が担うことの一部分を家庭教育へ、というお話をさせていただきました。施策の方向性の「20 家庭教育力の向上」や「21 地域で子どもを育む意識の醸成」も関連してくるかと思います。委員の方々から何かご意見はありますか。

○委員（永井勝彦）

少年センターという立場におりまして、感じたこととデータを比較してお話させていただきます。最近、少年センターによく相談に来られる保護者や子どもたちは、人間関係のトラブルや人とのコミュニケーションが上手く取れないという問題を抱えています。心理療法士の方々とお話をする中で、子育てについて、どの辺りまでさかのぼって話を聞くのか質問すると、やはり保育や幼児教育までさかのぼるそうです。幼いときにどのような体験をしたかが根っこにあり、子どもが誕生したときのことや、言語コミュニケーションをする以前にまでさかのぼり、スキンシップの欠如が関係しているのではないかという話も

よく出ています。

資料2の6ページの分析結果を見ると「家庭教育に関する施策の充実」は満足度も、重要度も低くなっています。保育や幼児教育の大切さや、妊娠された段階での親に対する指導について、教育の原点として考えていかねばならないと思います。地域の関わりも含めて、親の役割ということが、「19 成長の基礎を支える幼児教育・保育の推進」の辺りに出てきてもいいのではないかと思います。

○委員（舟橋尚女）

今のお話を聞いて、ある場面が思い浮かびました。小牧市ではありませんが、地下鉄の車内で若いお母さんと子ども2人を見かけました。子どもの1人が寝ていたのですが、ハッと目を覚ましてお母さんの方を一生懸命見ているのに、お母さんはその子を見ずにスマートフォンのゲームをしていました。子どもは一生懸命アイコンタクトをしたがっているのに、お母さんと目を合わせることができませんでした。駅に着くと、お母さんは子どもに声をかけることもなく、2人を連れてさっと降りていきました。それを見て、母親がこのような接し方では、子どもがかわいそうだなと思いました。

基本的な親の愛情が人間関係を築く基盤になります。学校は、集団で同じ学年の子どもたち、あるいは他の学年の子どもたちと一緒に、決まりやマナー、思いやりなどを育てる場です。地域には、異学年の子どもや大人がいるので、横だけでなく縦や斜めのつながりがあります。そのような関係の中で、子どもたちにしつけをし、子どもたちの心を育てていく、みんなが関わり合い、それぞれに役割があるのではないかと思います。

○委員（伊藤健次）

データをあらかじめ見させていただき、今お二方が言われたことは、とても共感できます。それをどうするかというところで、一定の方向性を出していかねばなりません。例えば、子育ての外注化、学校教育と家庭教育の役割分担意識の醸成、そのあたりの線引きが曖昧になってきている結果としての今だと思います。家庭教育の重要性をもっと伝え、そこにおける親の役割を重視するような啓発環境があってもいいと思います。それを支えるような地域活動や生涯学習も、もっと強調されていいのではないかと思います。私は生涯学習関係に何年も携わっております。保護者の方の意識の問題については、とても難しいと日々感じるのですが、行政としてはそこを強調して前面に出していくくらいのことがないと、市民の意識は変わっていかないのではないかと思います。

○会長（柴田好章）

生涯学習だけでなく、学校教育もそうだと思います。基本的に自発性によるところが重要で、特に生涯学習の場合はそれが強いと思います。啓発という視点で、働きかけることができればいいのではないかと思います。このあたりで、計画に盛り込めそうなことや、お考えがあればお願いいたします。

○委員（伊藤健次）

幼稚園や保育園で、保護者の方に家庭教育学級の講座を実施するだけではなく、もう少し踏み込んだことはできないでしょうか。先生方がたくさんいらっしゃるので申し上げにくいのですが、学校には何でもかんでも引き受けてきた歴史があると思います。例えば給食指導という言い方で、お箸の持ち方やご飯の食べ方まで指導してきたのは、やり過ぎではないかというのが私の個人的な意見です。その辺りも、役割を分けて考えねばならないのではないかとというのが感想です。

○会長（柴田好章）

今お話しいただいたのは、学校が担うべき役割、地域が担うべき役割、家庭が担うべき役割、それを完全に分けることはできなくても、できるだけ明確にしながらそれぞれの役割をお互いに自覚して取り組んでいこうということですね。全市を挙げて取り組む必要があるというご意見もいただきました。

もう1点、教育振興基本計画の性質として、どこまで盛り込めるかという難しさはあるかもしれません。計画を立て、実行し、政策を評価し、改訂していくというPDCAの流れの中で、今はPのプランの部分にあたると思うのですが、プランのさらに元になるビジョンのところだと思います。家庭では、子どもをこのように育てていく、地域ではこのように育てていく、というように先ほど先生がおっしゃったようなことになるかだと思います。そのようなビジョンを計画の中にどの程度打ち出せるのか、文言を作成していただき検討が必要ではないかと思います。できるだけ、委員のみなさまの思いを生かした基本計画になるよう策定の工夫をしていただければと思います。

○委員（舟橋尚女）

ここに盛り込まれていることは、それぞれが大事だと思います。ただ、資料3の3ページ「(3)それぞれの役割」のところになりました。学校でやりましょう、家庭でやりましょう、と言っているのか、市としてバックアップするのか、力を貸すのか、引き上げるのか、啓発するのか、それとも、それぞれで役割を分担するのか、その辺りがよく分かりません。市がどう支えていくのか、どのようにサポートするのかが見えづらく、この計画自体が、どのような姿勢でつくられていくのかが分かりにくく思いました。具体的には、各課がそれぞれ関わって取り組んでいくことは出てくるので、市がどう進めていくのかは見えるのですが、最初の市の姿勢のようなところが分かりにくく思います。

○会長（柴田好章）

資料3の3ページの役割のところと、それ以降の計画の基本的な方向性をどう捉えていくかですが、その辺りはどうでしょうか。基本的なそれぞれの役割を定めながら、具体的な基本目標に落としていくという構造になっていると思います。この会議の中でも、色々なご意見がありますので、役割についても、議論の対象としていいのではないかと思います。いかがでしょうか。

○教育総務課長（松永有紀彦）

計画の骨子案についても、議題としておりますので、ご意見など頂ければと思います。頂いたご意見に対し、見直しなどが必要となれば、今後修正を加えていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○会長（柴田好章）

資料3の「第1章 目指す教育の姿」についても、このような形でいいかどうか、それに向かうため、「第2章 「小牧市教育振興基本計画」の基本事項」はこれでいいのか、その辺りもご議論いただければと思います。

○委員（舟橋尚女）

質問ですが、資料3の第1章と第2章は、この順番が普通なのでしょうか。計画をつくるにあたって、調査やアンケートを実施し、その結果から子どもたちをどのような姿にしたいのかを導きだし、そのためには具体的にどうするか、という流れではないのでしょうか。

もう1点、申し上げます。資料3の第1章「（2）目指す子ども・人間像（身に付けてほしい力）」の中で、「「ふるさと小牧」を愛する」を1に持ってきたのには、何か理由があると思うのですが、今までのアンケート結果や親の願いなどから考えると、2の「自分や他者を大切にすることができる」の方が先ではないのかと感じました。

○委員（森澤洋美）

計画をつくるからには、テーマを定めて策定していくというのが、理想だと思います。整合性を持った計画をつくるには、基本理念を起ち上げて流れていった方が、スムーズではないかと思いました。

また、舟橋委員のご意見にありましたが、「（2）目指す子ども・人間像（身に付けてほしい力）」については、やはり「自分や他者を大切にすることができる」を1にした方が理解しやすいのではないかと思います。2、3、4、1の順番で「「ふるさと小牧」を愛する」が最後でもいいのではないのでしょうか。なぜなら、自分が住んでいるところは小牧市であるということが、最後の括りになると思ったからです。

○教育総務課長（松永有紀彦）

先ほど間違って説明してしまいました。第1章については、冒頭にも話がありましたが、市長部局が現在策定している教育大綱がまだ不確定であり、それに関連してくるため、今後変更になる可能性もありますので、ご承知おきください。

○委員（倉知雪春）

資料4の施策の方向性「1 「学び合う学び」を基本とした授業の推進」の具体的な事案の中の「互いに関わり合う授業の実施（アクティブ・ラーニングの）」が、途中で言葉が切れているように思いますが、この続きは何と書いてあったのでしょうか。

○教育総務課長（松永有紀彦）

一部切れておりました。失礼しました。「アクティブ・ラーニングの実施」です。

○委員（倉知雪春）

アクティブ・ラーニングの実施と、学び合う学びをどのように捉えているのでしょうか。

○学校教育課主幹（梶田光俊）

学び合う学びの授業とアクティブ・ラーニングは、同意として捉え、書かせていただいております。

○会長（柴田好章）

主に学校教育、家庭、地域の関わりについて議論が進みました。基本計画の成立の確認を行ったところですが、文化やスポーツについてのご意見はございますか。

また、伊藤委員より文言を整理した方がいいと最初にご提言いただきましたが、具体的にご指摘いただくことはできますか。

○委員（伊藤健次）

先ほども申し上げた「教員への研修の推進」というところです。他の事業との関連も出てくるので、このような言い方しかできないのでしょうか。また、図書館の関係で「～の充実」などの表現が出てきますが、具体性がないのでしょうか。他の表現ができないのかと思いました。図書館の建設の関係もあるのですか。

○会長（柴田好章）

文言については、どうするか難しいところもありますが、精査も必要だと思います。先ほど倉知委員が指摘された「授業の実施」については、実施する主体が誰かということですが、授業の実施を市の事業としてサポートするのか、あるいは市が主体となって行うのか、その辺りを分かりやすくした方がいいのではないかと思います。

そのほか、全般的なことについても、ご意見がございましたらお願いします。

○委員（森澤洋美）

資料4の施策の方向性「20 家庭の教育力の向上」についてですが、小牧市は公立幼稚園が1園しかなく、ほとんどが保育園ですが、保育園でも家庭教育推進事業を行っているのでしょうか。春日井市は私立幼稚園が多く、家庭教育推進事業という形で講演会などをされているそうです。

○生涯学習課長（岩本淳）

小牧市には公立幼稚園1園のほか、私立幼稚園もございます。幼児期家庭教育学級事業は、保育園、幼稚園、公立の園、私立の園ともに実施しております。市内で、合計26園の学級を起ち上げ活動をして頂いております。

○委員（森澤洋美）

以前の小学校の家庭教育学級はサークル化してしまっているところがありましたが、それは現在もそのままなのでしょうか。社会見学や何かをつくりましょうという活動の方が楽しく、募集をかけて参加者が集まると思います。ただ、母親たちが自ら研鑽を積んで色々なことを学んでいこうというのが原点だと思いますので、そこに立ち戻ってはいない

のでしょうか。現状を知らないのでお聞きしたいと思います。

○生涯学習課長（岩本淳）

市内の小中学校は合計25校ありますが、そちらでも家庭教育学級という事業を行っていただいております。内容は、今、森澤委員がおっしゃられた通りサークル的な内容もございます。しかし、保護者の方が趣味でやっているだけで目的が達成しているわけではなく、趣味を通じて、保護者同士が知り合いになり、家庭教育についての相談や悩みを共有して頂いているということでサークル活動が行われていると理解しています。その他、学校ごとに活動をして頂いていますが、家庭教育や子育てに関する講演会のようなものを企画し開催している学校もございます。

○委員（伊藤健次）

資料4の施策の方向性「5 特別支援教育の推進」の方向性の細分化に「インクルーシブ教育の推進（合理的配慮の提供）」とありますが、この基本的な考え方について教えてください。また、具体的な事業に「特別支援教育相談員の配置」「必要に応じた支援員、介助員の配置」とありますが、何かお考えがあってこのように書いているのでしょうか。例えば、「通級指導の実施」もそうだと思うのですが、単純に相談員の数を増やすだけで、インクルーシブ教育の推進になるのかどうか疑問に感じます。

○学校教育課主幹（梶田光俊）

「5 特別支援教育の推進」について、「インクルーシブ教育の推進」の具体的な事業としては「通級指導の実施」のみが該当すると認識しております。更に大きな枠での推進ということで「特別支援教育相談員の配置」や「必要に応じた支援員、介助員の配置」と思っております。インクルーシブ教育のために事業を行っているわけではないと考えております。

○委員（伊藤健次）

細かい話になりますが、今おっしゃられたご説明なら、この表の罫線は間違っていないか。「特別支援教育相談員の配置」の上に、罫線が必要になるかと思えます。

○教育総務課長補佐（野田弘）

今、ご指摘頂きました資料4の「インクルーシブ教育の推進」については、表のつくり込みの誤りで「通級指導の実施」と「特別支援教育相談員の配置」の間の罫線が入っておりませんでした。「インクルーシブ教育の推進」と「通級指導の実施」が一对になっているつくり込みに修正させていただきます。

○委員（舟橋尚女）

集団の中で障がいのある子どもが活動する場合、補助する人がそばにいた方がいいという意味で私は捉えました。

○委員（伊藤健次）

全体的な捉え方の中で考えるならば、罫線を入れたり入れなかったりというのはおかし

いのではないかと思います、指摘させて頂きました。人的な問題だけではなく、設備の問題や、学校の構造の問題などもトータルに考えていかなければならないと思います。その辺りがどうなっているのかに疑問を感じました。あまり単純に線を引いたりするよりも、一体的に考え、物理的な環境について触れる方がいいのではないかと思います。インクルーシブ教育について、文部科学省が言っていること自体も、理念的におかしく、疑問に思っているところです。

例えば、「通級指導の実施」は、具体的に高頻度でされているのでしょうか。

○学校教育課主幹（梶田光俊）

具体的な数字については、今手元に資料がないのでお答えできないのですが、現状として言葉、学びを中心に通級指導を実施しております。

○委員（伊藤健次）

今朝、市役所内を通ってきましたが、受付などにも外国人の方がたくさんいらっしゃいました。特別支援教育もそうですが外国籍の子どもについても、小牧市の特色に対応する形で、施策体系の中に具体的な事業や方向性が出てきてもいいのではないかと思います。

○会長（柴田好章）

施策の方向性の5と6あたりが一体となった個別の生徒への支援や、ハード面の整備、受け入れるための意識など、全体的なことも多く関係してくると思います。もう少し、具多的な事業について考えていければいいのではないかと思います。

○委員（伊藤健次）

資料2の6ページに、市民アンケート、保護者アンケートの分析結果の表が出ていますが、スポーツ関係は、かなり見直しエリアに入っています。生涯学習も一部見直しエリアに入っており、検討が必要であると思いました。資料4では、ハード面の施策が細かく出ていて、先ほどの分析結果と必ずしも整合していないという印象を持ちました。この辺りの考え方を、もう少し検討してもいいのではないかと思います。

○委員（舟橋尚女）

資料3の第1章「(2) 目指す子ども・人間像（身に付けてほしい力）」の中にも、体や心を培うというような健康面について出てきていませんが、「3 未来への夢や展望を持ち、自分を高め続けられる」のところに入るのででしょうか。「健やかな体と心を培う」という視点があれば、もう少し具体的な内容が出てくるのではないかと思います。

○委員（長尾英俊）

資料4の基本目標「8 あらゆる市民が参加できるスポーツ活動の展開」にも、具体的な施策が多く挙げられています。しかし、市民や保護者の意識として、健康・スポーツは当たり前で必要なことではありますが、具体的に強調して意識化するものではないような捉え方をしており、具体的な学習のニーズを優先してしまう傾向があると思います。決して、スポーツ活動や子どもたちの健康が無視されているわけではありませんが、このグラ

フには表れてきていないと感じました。

○委員（伊藤健次）

やはり施策とアンケートの結果にはズレがあると思います。施策で方向付けていくということも、あっていいのではないかと思います。

○委員（長尾英俊）

重要度が高い、低いという認識は、客観的ではなく、主観的な捉え方として出ているだけだと思います。私のようにスポーツに関わっている者の立場からすると、この分析結果を見る限り、健康・スポーツの重要度が低いのはおかしいと言いたいのですが、決してそういうことではないということは理解しているつもりです。おそらくスポーツ推進課長もそう理解されているのではないかと思います。

○教育部次長学校教育担当（伊藤一裕）

資料2について話題になりましたので、補足説明させていただきます。四角の枠の中に、アンケート結果から推察された内容が書かれています。この推察を元に、今ご議論いただいている資料4の施策を設定させていただきまいた。基本的に、今進行中の施策を整理して設定させていただきましたが、資料2の5ページ、6ページの分析結果を見ながら整理をし、今後の課題解決に向け、新たな施策も発生してくると思います。特に、取り組み内容の見直しエリアに入ったものでも、やらねばならない内容については推進していきますので、その辺りは書き込んでいかねばならないと思っております。現在、順調に進んでいる内容は、計画の中には織り込まなくても事業として継続していきますので、今後も整理していきたいと思います。資料2の分析結果からの推察が、今後施策を見るにあたり非常に重要であり、推察を少し間違えると違った方向へ進んでしまうため、今一度この推察が的を得ているかどうかという視点でご意見を頂ければと思います。

○会長（柴田好章）

重要度が低いという分析結果が、必ずしも施策としての重要度を定めるものではないということで共通理解をして頂ければと思います。その上で、資料2の6ページの分析結果について、他にご意見はございますか。

○委員（倉知雪春）

この分析結果に、市民と保護者それぞれの立場が出ていると思います。また、どうしても関心があること、ないことで差があると思います。例えば、外国籍や特別支援などマイノリティの部分については、当事者以外は問題としてあまり出てこないため、対象者が非常に少なくアンケートにも反映されていません。しかし、小牧市にとっては非常に大事な問題であるため、取り上げていただき、当然、行政として補完していく必要があると思います。

スポーツなどもそうだと思います。みなさん、色々な楽しみ方をされています。そのような中で、高齢化になって医療費の問題が発生したときに、健康を維持してもらうことで

財源の問題的にも助かる部分があるという視点でいけば、スポーツについても推進していく方がいいと思います。

かなり網羅的になるとと思いますが、課題は出てくるので、アンケート結果だけを重視するわけにはいかないと思います。

○委員（舟橋尚女）

幼稚園、小学生、中学生は出ていますが、高校生については、行政として突っ込んでいくところが難しいので出ていないのでしょうか。

○会長（柴田好章）

高校生に対する具体的な事業が少ないということでしょうか。

○委員（舟橋尚女）

高校生だけでなく、生涯学習の中で、若者たちに向けているメッセージが感じられたらと思いました。

○教育部次長学校教育担当（伊藤一裕）

平成13年に策定しました教育ビジョンの新しいバージョンという形で小牧市教育振興基本計画を策定するため、特に小学校、中学校を中心とした現状把握をするために、アンケートをつくり込んでいます。今回のアンケートでは、ご指摘の高校生や生涯学習、生涯スポーツ的な内容についての項目は設けていません。なぜなら、既存の計画で生涯学習や生涯スポーツ、文化振興について進行しているものがあるからです。その中で、それぞれアンケートを実施しております。その内容を元に、この計画の中にも反映していこうと考えております。

○委員（倉知雪春）

小・中学校は小牧市の学校のため計画の中に入れていくことができますが、県立の学校や高校について関与するのは難しいと思います。ただ、最近、高校生の子どもたちがキッズフェスにボランティアで参加するなど、連携プレーの活動が増えてきています。高校や大学と連携しながら、高校生や大学生とのつながりをつくっていく活動が、いくつかできるといいと思います。ただ、地域の中で高校生が活動するという事は少ないと思います。学校との連携の中で参加してもらうのが、一番現実的ではないでしょうか。

○会長（柴田好章）

先ほど、学校の役割、地域の役割、家庭の役割について考えましたが、ちょうど学校と地域の間になる、地域の中での異学年交流が少ない部分が、地域と学校の交流で可能ではないかと思います。

○委員（長尾英俊）

子どもと大人の間、中学生、高校生、大学生、そして25歳位までの若者がいます。県の1つの方向性として、この年代に視点を置き、いかに生涯学習の中に取り込んでいくか、カバーしていくか、という意識付けがあったと思います。そのような捉え方をすると漠然

とした形に広がりだけが出てきてしまい、大綱そのものの焦点がぼけてしまうような気がします。私の思いとしては、倉知委員が今言われたように、小中学校の教育を軸とし、学校に関わっている若者を視点として捉えるのはいいと思います。しかし、その年代をどうするかの問題にまで計画の中に入れていくのには、無理があるのではないかと感じました。あくまで、小中学校教育をベースとし、高校生やそれ以上の年代が関わっているという視点においた捉え方くらいしかできないと思います。

○会長（柴田好章）

では議題（3）今後の進め方について、事務局よりご説明願います。

（3）今後の進め方について

—説明—

○委員（伊藤健次）

推察部分の意見については、メールなどでよろしいでしょうか。

○教育総務課長（松永有紀彦）

本来ならば、本日ご意見を頂きたいところでしたが、何分時間の都合もございますのでメールで結構です。万が一こちらの考えが間違っていることがあれば、施策の体系などに影響がありますので、連絡を頂ければと思います。

○会長（柴田好章）

資料2については、本日十分に議論し尽せなかったところがあると思います。特に、四角の枠の推察について何かありましたら事務局までご連絡をお願いします。

○教育部長（大野成尚）

本日、計画骨子案・たたき台を出させて頂きました。分析結果については、スポーツの重要度が低く、満足度が高いため、どうなるのかというご意見もありました。記載は薄くなるかもしれませんが、時代の流れや傾向などを取り入れながら、方向性を加味した施策づくりをしてまいりたいと思います。今日の会議の中にもありましたが、今後、文言や記述、事業の内容などを記載していくこととなります。今後の小牧のための計画であるため、1つずつの事業が、目指すべき姿、方向性につながればと思っております。

また、今お話がありましたが、先の計画をつくるため、推察が合っていないと、骨子案の意味合いも変わってきてしまいます。全てを網羅することは難しいかもしれませんが、方向性を示すことができれば、今後の計画づくりに非常に参考になると思いますので、よろしく願いいたします。

○会長（柴田好章）

この推察部分から今後の誌面がつくられることとなりますので、そのあたりを留意された上で、ご意見を頂ければと思います。

では、以上で本日の議題が終了しましたので、事務局へお返しいたします。

3. その他

○教育部次長（伊藤一裕）

柴田会長、ありがとうございました。では、次第の「3 その他」について、事務局よりお願いいたします。

○教育総務課長（松永有紀彦）

次回の第3回ですが、基本計画の素案の検討を議題としまして、8月の下旬の開催を予定しております。日程が決まり次第、ご連絡いたします。なお、事務の進捗状況により前後することもございますので、ご了承くださいませようをお願いいたします。事務局からは以上です。

○教育部次長（伊藤一裕）

全体を通しまして、ご質問などはございませんか。ないようですので、これをもちまして「第2回小牧市教育振興基本計画検討会議」を閉会させていただきます。長時間に渡り、ありがとうございました。

<閉会 午前11時51分>